

教育と文化

No.123

令和2年7月



Contents

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| 2 巻頭言 | 10 令和元年度最優秀論文 |
| 4 三河の文化を訪ねて | 12 刊行物の活用紹介 |
| 6 特集 研究助成団体の紹介 | 13 令和2年度学校教育ボランティア助成グループ一覧 |
| 8 教育随想 | 14 令和2年度研究発表校一覧 |
| 9 教室の窓辺 | 16 文振だより |



巻頭言

伝統を引き継ぐ

公益財団法人愛知教育文化振興会理事長 天 野 明 典

このたび、壁谷幹朗先生の後を受けて理事長に就任しました。長い伝統をもつ愛知教育文化振興会の理事長としての重責を感じ、身の引きしまる思いです。もとより微力ですが、役員の皆さん、事務局の皆さんのご指導ご支援を得て、職務を遂行していこうと思っています。前理事長同様に温かいご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

三河の教育の本質は、「流行や流儀を追うことではなく、あくまでも子どもに誠実で、地道な教育実践を継続していくにある」と言われています。その伝統が、愛知教育文化振興会の刊行物にも息づいています。昭和57年に、副理事長であった日高晶平氏は本誌で「自分たちが編集した物を自分たちが教室で実践し、その結果を反映し改善していく」と記しています。

今もその伝統は受け継がれ、刊行物の編集は三河教育研究会が担当し、三河の郡市から選出された委員が編集しています。それを学校で実際に使ってみて、モニターによる評価をしています。その評価に基づき、改善を加えて、次年度版を作成しています。今も、目の前の子どもの姿を念頭に、できるだけ安価に、現場の教師の手助けとなる刊行物を目指しています。

2年前から、校長会、三教研、文振の三者の連絡会が行われるようになりました。同席させていただく中で、新規刊行物「英語の学習」の生みの苦勞を目の当たりにしてきました。

とを通して先輩になる意識を高めていきます。きつと昨年度の自分の姿を重ね合わせていることでしょう。

入学すると、新1年生はすぐに5月に行われるファーストコンサートに向けて合唱練習に取り組み始めます（今年度は中止しました）。入学して初めて学級ごとに合唱を発表すること、1か月間ほどという短い練習時間しかないこともあり、緊張して伴奏が途中で止まってしまうこともあります。一生懸命を肌感じます。発表後は、音楽の教師が審査・講評をし、簡単なレッスンもします。生徒は真剣に講評を聞き、レッスンへの集中度も非常によいです。こんな経験を積んで「合唱の朝中」はつくられるという思いをもちました。

さらに、生徒会の委員会の中に「合唱委員会」があります。合唱する環境を整え、合唱を支える役割を担っています。朝の会後の発声練習や、給食後の合唱練習の指示を出すことも行っています。片づけを済ませた教室で、円になってパートごとに練習する姿は微笑ましいものです。

合唱の最大に盛り上がるイベントは、11月に行われる合唱コンクールです。本校は豊田市の中心部に位置し、市民文化会館に歩いて5分の場所にあります。平成元年度から市民文化会館の大ホールで合唱コンクールを行うようになりました。毎年、1階席は生徒と保護者、地域の人でいっぱいになります。

合唱コンクールの中で、観客が心待ちにしてい

るのは、3年生の学年合唱「大地讃頌」です。学年合唱の合格をもらえない学級は、各学級の合唱曲の練習に入れないという掟があります。それで、みんな必死に練習するのです。

3年生は、場を踏んできているので、緊張というより、聴かせることを楽しんでいるようです。リラックスさせる指揮者の言葉、にこやかな表情は、会場を和やかにします。ブザーが鳴り、曲紹介が始まるとモードが変わります。静まり返った会場に、3年生の重厚で、澄み切った歌声が響きます。歌い手と聞き手が一体となった感動は、言葉に尽くせません。

本校が「合唱の朝中」と呼ばれるようになったのは、昭和の終わりから平成の初め、中学校が荒れたときに、何とかして学校を立て直そうと合唱に力を入れたのがきっかけだそうです。各種の合唱コンクールに出場し、東海北陸の大会にも出られるようになりました。自信をつけた生徒たちが、学校を立て直したのです。よい成績をとるためではないのです。合唱を通して一生懸命取り組む尊さ、達成感等を味わわせたいという願いがあったのです。

「伝統を引き継ぐ」とは、どういうことでしょうか。形を守るだけではなく、そこに流れる強い思いを、次の世代に伝えていくことだと思います。その一翼を担えることを幸せに感じながら職務に励みたいと思います。

小学校での英語の教科化が決まり、「授業に役立つ学習資料が必要である」という声があがると、さっそく、平成29年度に三河教育研究会の英語部に属する会議の一つとして「小学校英語」学習資料検討委員会が立ち上がりました。翌年度には、「（仮）小学校英語編集委員会」が設置され、評価に役立つ学習資料のサンプル作りが本格化しました。昨年度は、正式に「英語の学習」編集委員会となり、教科書が決まると同時に編集作業が急ピッチで進みました。観点別評価に対応でき、QRコードとリスニングCD付きの現在の形になりました。実際の授業での使い勝手については、本年度忌憚のないご意見をいただきたいと思っています。

「伝統を引き継ぐ」ということで、私の勤務校である豊田市立朝日丘中学校の「合唱」について紹介します。

本校は、地域から「合唱の朝中」と呼ばれているほど歌を大切にしている学校です。朝の会後に発声練習をしたり、給食後に合唱の練習をしたりすることが日常的に行われており、歌声が毎日絶えない学校になっています。

本校に入学してくる子どもたちの合唱への関わりは、入学説明会から始まります。入学予定の生徒の保護者が学校からの説明を受けている裏で、6年生は出身学校ごとに別の会場に移動し、先輩となる1年生から発声練習の仕方を教えてもらいます。1年生は後輩になる小学6年生に教えるこ



瓦をテーマにした日本で唯一の美術館

高浜市やきものの里

かわら美術館

高浜市教育委員会 学校経営グループ 主幹 鈴木 剛

高浜市は、生産量日本一を誇る三州瓦の中心的な産地である。生産が始まったのは江戸時代中ごろ、材料となる良質な粘土が豊富に採れたこと、海に面しており輸送の便に恵まれたこと、大都市で瓦葺きの家屋が増えたことなどにより、幕末から明治にかけて一大産地として発展を遂げた。この地、高浜に、「高浜市やきものの里かわら美術館」は日本で唯一の「かわら」をテーマにした美術館として、平成7年10月に開館し、今年は開館25周年を迎えることになる。日本や世界の瓦と焼き物を中心に、それらに関連した絵画や版画、浮世絵、書、写真等の美術品を収集し、常設展示や企画展をおし紹介している。また、さまざまなテーマの特別展を開催しており、瓦や

やきもの、絵本原画、アール・ブリュットやサブカルチャー、平和に関する展覧会などを行っている。そのほか、館内に陶芸創作室を設置しており、やきものをつくる楽しさを味わうこともで



やきものの里 森前公園

きる。また、ホールやスタジオも利用することができ、芸能文化活動の拠点としての役割も果たし、市民からも親しまれている。

千石船をイメージした建物

やきものの里 かわら美術館（以下かわら美術館とする）が建つこの地は、かつては海であった。ここから全国に向けて瓦を運んでいたこともあり、美術館の建物は、「千石船」をイメージしてつくられている。また、美術館の前面には、美術館建設に合わせて整備された「やきものの里 森前公園」が広がっている。こちらは、千石船が進む「海」に見立て、灰銀色の「いぶし瓦」が波を表現するように敷き詰められている。美術館そのものが美術品と



やきものの里 かわら美術館 全景

美術品としての瓦

瓦の展示と聞くと、そこに歴史的な価値を求めがちであるが、かわら美術館では、美術品として瓦を鑑賞することをコンセプトとしている。常設展示では、中国古代から現代の瓦や白鳳時代の古代瓦、安土桃山時代の瓦などとともに鬼師（鬼瓦をつくる職人）の技が光る手作りの造形的な飾り瓦（鬼瓦）や現代の最先端技術でつくられた瓦など、古代から現代までさまざまな瓦を鑑賞することができる。

海を渡る三州瓦

近年、三州瓦は海外に輸出される機会が増え、最近では高浜・碧南地区で焼成された瓦が中国の古都、西安の大雁塔を管轄する大慈恩寺の伽藍の一部を新築する際に採用され、三州瓦が国際的にも評価された。この大雁塔は、三蔵法師（玄奘三蔵）が唐代にインドから持ち帰った經典が収められているところで、シルクロードの文化を代表する史跡である。それを管轄する現代の寺院で三州瓦が採用されたことは、三州瓦もシルクロードの文化の保存の一翼を担うと言っても過言ではない。

進化する瓦

瓦の技術は、588年に百済から招聘された4名の瓦博士によって日本へ伝えられた。以来、屋根を覆う瓦は、風雨から家を守る機能性とともに装飾性を求められ進化してきた。不燃性の瓦は、木造建築の多い日本において火災延焼を防ぐ役割も担っていたため、鯢、菊水、波、雲など水や雨を連想させる造形が多く見られる。また、厄除けとして鬼や鍾馗、福を招く七福神、長寿の象徴である鶴や亀、途切れることなく続く子孫繁栄を意味する蔓草や雲流など、人々の願いが形となった飾り瓦がたくさんあり、地域の屋根を彩っている。近年では、地震や台風など災害に対応した「防災瓦」が製品化されている。軽量で施工時に瓦同士が



屋根を彩る飾り瓦（鬼瓦）

の自然災害に強い固定力をもっている。また瓦の材料や製法を用いて食器や表札等がつくられ、普及しているところでもある。

鬼みち&鬼みちまつり

市内には歩ける道「鬼みち」がある。平成8年から国のウォーキングトレイル事業によって整備され、平成16年には、「美しい日本の歩きたくなる道500選」に選ばれた。名鉄高浜港駅より三河高浜駅までの約4キロメートルのコースに、飾り瓦や鬼瓦、瓦の材料や製法を用いたモニュメント等が配置され、「かわらのまち 高浜」を感じることができるとなっている。また、ぜひ足を運んでいただきたい。毎年、「鬼みちまつり」が開催されている。高浜の文化的シンボルである瓦の歴史やそれを肌で感じることでできる鬼みちを拠点として、郷土の個性や自然からつくられる情緒を再認識するために始められたイベントである。毎年、多くの人が訪れ、賑わいを見せている。「鬼みちまつり」に向け、市内の園児、小・中・高校生が瓦粘土を使って鬼あかり（陶製ランプシェード）を制作し、鬼みち沿道を飾っている。子どもたちは、鬼師やかわら美術館の指導員からの指導を受け、思い思



鬼あかり制作の様子



鬼あかり点灯

開館25周年を迎えて

今年度、高浜市は市制50周年を迎え、かわら美術館は開館25周年を迎える。かわら美術館では、学校団体向け美術館利用の仕組みが整えられており、利



【やきものの里 かわら美術館】月・火曜日休館

高浜市青木町九丁目6番地18
Tel.0566-52-3366



1 子どもたちの健やかな成長のために

● 特別な配慮を要する児童生徒の対応（安城）



子どもの発達に関する課題を取り上げ、児童生徒の発達を支援するために教頭としてどのように校内体制を確立していくのか、どのように教職員の対応力を育てていくのかについて研究をすすめた。

ある小学校では、当該児童に対しスクールカウンセラー（SC）や医療機関と連携し、学校における支援方法について助言をいただいたり、「主体的・対話的で深い学び」を特別支援の視点ですすめるためにワークショップ形式による校内研修を行ったりして、支援体制を確立させていった。

● 地域とともに成長する学校（豊橋）



子どもたちの成長は、学校だけでなく地域の活性化を促し、「地域とともに成長していく学校」づくりに大きく関わっていくという理念から、学校・地域との連携をどのように教頭がコーディネートしていくのかについて考え、実践をすすめた。

ある中学校では、保護者（PTA）と地域の方への協力をいただきながら校区の主要道路に生える果実の収穫活動を行い、収穫された果実を校区内の福祉施設や他県地域に配布し交流を図った。

上級生が下級生に収穫の技術的知識や方法を伝達するなかで「協力の大切さ」や「勤労の喜び」を実感した。また、地域や保護者の協力を得ることで、連携の大切さにも気付いた。連絡調整や広報活動を行うという教頭の役割の大切さを確認した。

2 よりよい学校運営のために

● 一歩進める働き方改革（岡崎）



通年で1つの課題について研修をすすめ、年に2回程度自主研修会を持ち、研鑽を重ねている。昨年度より「働き方改革」について研究をスタートさせたが、本年度は「一歩進める働き方改革」を主題とし、外部からの講師を招聘してご指導をいただいたり、各学校におけるさらなる取り組みの実際と課題・成果を共有し合ったりする機会を得た。

学校行事やPTA活動の精選・工夫、教員の負担軽減や意識改革など、各学校でできるさまざまな取り組みについて、グループ討議、全体討議を経て伝え合い、自分の学校に持ち帰って還元するなど、有意義に研修を深めることができた。

● 若手・ミドルリーダーの育成（田原）



教育現場での推進力としての若手教員の育成、そしてミドルリーダーとして40代前半の教員の育成に努めている。とりわけ、参画意識を高め学校を運営していくマネジメント力を育成することを課題としてとらえ、研究に取り組んだ。

ある中学校区にある5つの小学校では、教頭間による情報交換だけでなく、他校のさまざまな年齢の教員との交流を通して、特に若手教員が新しい見方や考え方に触れること、ミドルリーダーが若手に助言することを狙いとして、夏休みに合同研修会を行った。討議内容は多岐にわたったが、若手教員の積極的な発言・質問があり、充実した機会となった。

地域・PTAと協働で子どもを育てる 教育コーディネーターとして ～三河教頭会の活動～



三河教頭会 会長 河合 正浩
（岡崎市立大門小学校）

上の写真は、新城の中学校の「防災フェスタ」の様子である。地域の一員として「助けられる側」から「助ける側」として行動できる中学生を育てることを目標にし、地域協働の事業として平成29年度から取り組んでいるという。

外部団体の方々の協力を得ながら、放水体験、AED講習や応急手当、避難シュート体験など、生徒が中心となり運営している。PTA委員と更生保護女性部の方々は炊き出し訓練を実施し、地域ぐるみの活動になっている。

内外からは、「学校や家庭ではできない貴重な知識や知恵を伝承できている」、「地域の方とのふれあいが、ご近所付き合いの輪を広げ、気軽に会話やあいさつができる関係を育んでいる」、「生徒に地域の人々への感謝の気持ちが芽生え、社会性や道徳性などを育てる教育が展開できている」などの評価を得ている。

わたしたち教頭は、児童生徒の成長はもちろん、人がつながり、地域が元気になることを目指し、学校を拠点に、学校・家庭・地域が力を合わせて、共に過ごし、共に学び、共に育つための「^{ともいっ}共育コーディネーター」（新城地区ではこのように表現している）としての重要な役割を担っている。三河教頭会では、このような力量を身につけるために、研修活動、情報収集活動を行っている。研究の視点は、次の3点である。

- ・継続性：これまでの成果を踏まえ、残された課題を解決すること
- ・協働性：教頭としてともに学びあうこと
- ・関与性：教頭としてどうかかわるかということ

このことを念頭に、三河地区が「ONE TEAM」となり、子どもたちの健やかな成長のために、よりよい学校運営のために、力を発揮できるように努めている。

教育コーディネーターとしての教頭の主な役割

- ① 地域の特色を生かし、PTAだけでなく地域の多くの方が参加できる活動を構想する。
- ② 外部の講師や団体等との連絡・調整を行い、必要な環境を整える。
- ③ 職員の役割を分担し、連携して運営できるよう配慮する。
- ④ 地域の方々への情報を発信し、学校の取り組みや児童生徒の様子を知ってもらう。
- ⑤ 教職員に過度な負担とならないよう工夫や配慮に努める。

子どもと科学をつなぐ

蒲都市生命の海科学館
インタープリター

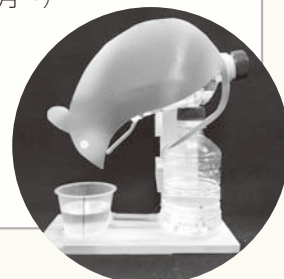
浅井 猛



Profile あさい たけし

1950年2月2日生（70歳）

- ・金沢大学理学部物理学科卒
- ・蒲都市理科教員（1974年4月～2010年3月）
- ・元蒲都市立蒲郡西部小学校長
- ・蒲都市生命の海科学館職員（2010年4月～）



定年退職後、本市科学館職員となり、11年目を迎えました。スタッフとともにチームを組み、出前授業、様々なワークショップやサイエンスショーを年間200回ほど行っています。当初からずっと継続している活動の中に、小学校低・中・高学年向けの3つの定例講座「かがく工作室」「かがく実験室」「理科実験室」があります。年間計画のもと、各講座月1回、各約20名の会員の子どもたち、付添いの保護者や当日参加の方とともに科学・遊びを楽しんでいます。

科学館での活動で、私が大切にしていることは、
「センス・オブ・ワンダー」不思議さに目を見はる感性を育てる（レイチェル・カーソン）という言葉につきます。教員生活を通して、この感性が子どもたちだけでなく、私たちにもとても大切であると感じてきました。そこで、「日常生活とのつながりを大切にする」「磯の観察など自然を体験すること」「これまでの科学や人々の歴史に学ぶ」などをテーマに教材作りをしてきました。教材は、科学と子どもたちをつなぐもの、私たち

はその手助け（インタープリター）なのですが、この教材作りは、私たち自身も、様々な体験を伴い、とても楽しく、心惹かれるものなのです。その中の一つ、江戸時代後期の人、国友村（現在の長浜市）の鉄砲鍛冶・国友一貫斎との出会いは衝撃的でした。彼は日本最初の反射望遠鏡製作者としても知られています。

江戸時代の科学の歴史、特に天文学について興味を持って学び始める前は、彼についてまったく知りませんでした。初めての出会いは、「江戸の天文学者星空を翔ける」（中村士氏著）の中でのこと、江戸時代にこれほどの人がいたとはと驚嘆しました。さらに「夢をまことに」（山本兼一氏著）や資料収集で訪れた「国友鉄砲の里資料館」で、彼だけでなく、同時代を生きた多くの人々が西洋と東洋の狭間で、この国とともに苦しみもがきながら、次の時代の礎となっていたことを知ることができました。自分のような浅薄な知識でこの講座をつくることへの恐れや抵抗感はありませんでしたが、それ以上に、一貫斎のように生きた人々

が多くいたという事実を、子どもたちや大人たちにどうしても知ってもらいたい、共有したいという思いの方がはるかに強く、講座で取り上げることになりました。

いろいろ調べる中で、驚いたのは、気砲（空気砲）の製作過程で、空気に重さがあることを発見していたことです。空気については、沢庵和尚の気づき（東海夜話）がありますが、実際に重さをもった物質としての見方は、日本では一貫斎が最初ではないでしょうか。そこで、彼の空気の発見過程とそれを利用した物づくりを、子どもたちに再体験させることが、空気についての科学的な見方・考え方を学ぶことにもつながると考え、「リュクトポンプ（真空ポンプ）」、大気圧を巧妙に利用した「ねずみ（自動給油灯りとり（右写真）」）づくりを高学年定例講座として実施しました。

「一貫斎の「夢」は、大空を飛ぶこと。「阿鼻機流」と名付けられた飛行機の設計図が残されています。カーソンの「センスオブワンダー」、そして一貫斎の「夢」。大切なものが一つ増えました。

教室の窓辺

高学年の迫力を

うたごえに込めて

豊川市立中部小学校 教諭 辻 拓也

本校では、学芸的行事として「うたごえ発表会」を行っています。学年ごとに練習を積み重ね、全校児童で互いの歌を聴き合い、地域や保護者に向けて発表します。子どもたちは歌うことに対して自信をもち、中部小学校のうたごえ発表会を誇りに思っています。

「聴いている人を感動させたい。だから『高学年の迫力をうたごえに込めて』という目標にしたいです。」

この発言に象徴されるように、うたごえ発表会に向けた目標を全員が納得し、我がクラスも動き出しました。目標を達成するための柱は3つです。

- ① 指揮者を見て歌うこと
 - ② 楽譜通りに歌うこと
 - ③ 歌詞の意味を考えて歌うこと
- パートリーダーを中心に、3つの柱を意識した練習が始まりました。すると、学級で話し合ったことを学年で伝え合いたいという意見がでてきま

した。歌詞の解釈を深める機会になればと、学年集会を開くことになりました。そこでは、

「歌詞の中に出てくる鳥は、本当の鳥のことではなく、夢のことをさしているのではないか。小さな鳥が成長して大きく羽ばたいていくように、一人一人が夢を大切にして、努力してかなえていくことを歌で伝えたいのだ。」という考えが導き出されました。この考えに触発された子どもたちは更なる高みを目指し、全員でがんばろうという雰囲気になりました。本番に向け、真剣に練習する姿が見られました。

道徳で、伝統や文化の主題で授業をした時、次のような発言がありました。

「その文化を愛し続けることが大切だと思えます。わたしたちの『うたごえ発表会』も、同じようにつないでいきたいです。」

この発言に感動しました。行事にかける子どもたちの思いを強く感じました。「カリキュラム・マネジメント」ということが言われますが、行事と教科とが繋がったと実感できました。

これらの実践は、私一人の力ではできませんでした。先輩の先生方に教えていただき、学年の協力があってできたことです。

初めての練習で、到達度26点と言った子が本番の後に105点と書きました。子どもに達成感や満足感を味わわせることができてうれしかったし、自信になりました。



今年度は持ち上がり、6年生を担任している辻教諭。特別活動主任として積極的な生徒指導をしています。子どもの見える小さなサインを見逃さない、きめ細かな観察力に感心します。さまざまな問題に対し、未然防止と的確な初期対応をしてくれています。

子どもとともに成長を続けることを喜びとしています。そこが肝です。今後も、子どもの近くに寄り添い続ける教師でいてほしいと願っています。

（校長 鈴木 一哉）

互いの考えの良さを認め合い、 協力的に学ぶ子どもの育成



幸田町立幸田小学校
教諭 新鶴田 道也

1 はじめに

今年度より全面実施となった、小学校学習指導要領の総則には「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること」とある。知識の量だけでなく、知識や技能を活用して社会や世界と関わり、未知の状況の中でも、予測困難な問題に対応する力が求められる中、「どのように学ぶか」についての関心が高まっている。

主体的に取り組む姿勢を大切にすることで、自分の考えを進んで発言できる子どもは増えるが、仲間の考えに耳

を傾けることができず、自分の考えに固執してしまう姿も見られる。子どもたちが仲間と協働することで、思考力や判断力を磨き、知識や技能を活用して社会や世界と関わる力をつけてほしいと願い、3年間の研究を行った。

2 研究の概要

(1) 目ざす子ども像

・互いの考えの良さに気付き、認め合うことができる子ども
・仲間と関わり合いながら協働的に学ぶことができる子ども

(2) 本研究の経緯

◇1年次は、中学校第2学年を対象に、学んだ知識や技能を活用して思考力、判断力、表現力を磨くために、副題を「ICTを活用した対話的で深い学びの実現をめざして」とし、次のような

手だてを講じて進めた。

①タブレットPCを用いた観察の記録

②グループごとの観察・記録活動

③観察記録を用いた全体討議

の終末では、イカが進化してきた証拠を探すために、スルメイカの解剖を行った。観察では、少人数グループで一台のタブレットPCを用いて、観察記録を写真に撮り、気付いたことを書き込めるようにした。タブレットPCがコミュニケーションツールの役割を果たし、発言が苦手な生徒も自分の考えを伝えることができた。学んだ知識や考え方を活用した観察を単元の終末に設定し、役割分担をさせることで、グループ内において、協働的に学ぶ姿を見ることができた。また、グループごとに記録した画像を大型ディスプレイに映しながら全体で話し合う場を設定することで、異グループ同士の関わり合いを促すことができた。

ICTの活用や単元構想の工夫によって、グループ内における協働的な学びを実現することができた。

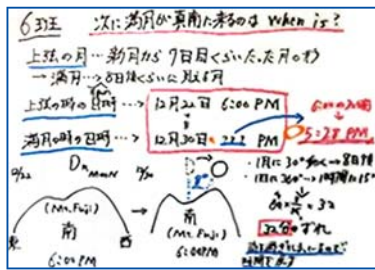
◇2年次は、中学校第3学年を対象に、「互いの考えの良さ」に気付くために「自分の考えの良さ」を認識させることを重視して、副題を「OPPAを活用した中学校第3学年理科の授業を基盤として」とし、次のような手だてを講じて進めた。

- ①一枚ポートフォリオシートの活用
- ②学習履歴への朱書き
- ③単元前後の自己の変容の振り返り
- ④グループ討議におけるホワイトボードの活用

学習者の知識や考えを学習履歴として記録し、その変容を自己評価させる方法に一枚ポートフォリオ評価(OPPA)がある。OPPAは教師のねらいとする授業の成果を、学習者が一枚の用紙の中に授業前・中・後の学習履歴として記録し、その全体を学習者自身に自己評価させる方法である。

「地球と宇宙」単元では、OPPシートを活用することで、毎回の授業で学んだことを学習履歴に記録させることができた。また、学習履歴への朱書きによって生徒の考えを価値付けることで、生徒の自己肯定感を高め、次時で自信をもつて発言する姿を引き出すことができた。OPPシートに単元前後の自分の考えを記入し、振り返らせることで、自分の考えの変容をモニタリングさせることができた。

グループ討議では、ホワイトボードに記録させることで、話し合いを活発にさせ、グループ



ホワイトボードの記録

内で協働的に学ぶことができる環境を整えることができた。

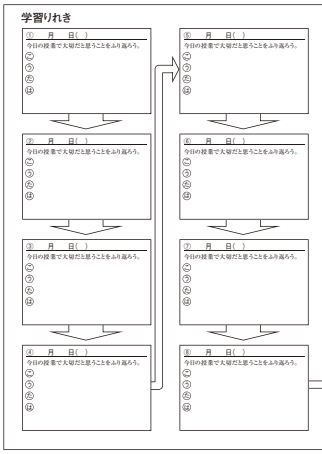
OPPAやホワイトボード等の支援によって、子どもたちはグループ内において互いの考えの良さを認め合い、協働的に学ぶことができた。

(3) 研究の内容と成果

◇3年次は、小学校第5学年を対象とした。2年次までの成果を生かして、副題を「中学校理科を見通した第5学年理科の授業を基盤として」とし、次のような手だてを講じて進めた。

①OPPシートを活用した学習履歴の記入と朱書き

2年次までの研究成果に基づき、小学校第5学年の子どもの発達段階に合わせて、OPPシートを開発した。「振り子の動き」では、単元を貫く本質的な問いを「振り子が1往復する時間を変える条件や変えない条件について、できるだけ詳しく説明しよう」とし、単元前後において同じ問いに答えさせ、自分の考えが変わった点について考え、記入させた。



OPPシート (学習履歴)

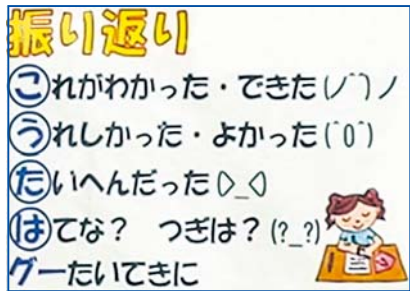
最初は重さなど、ふれはばで変わると思っていて、途中からひもの長さもそうかなと思って、ひもじゃなく、ふりこの長さになった。条件はふりこの長さ。

児童Aによる学習前後の考えを比べた記述

問題解決の中に、習得・活用・探究

②単元構想における学習過程と学習形態の工夫

問題解決の中に、習得・活用・探究の記述から、自己の変容をモニタリング(メタ認知)することができたと考えられる。メタ認知を促す活動は思春期に入る小学校高学年から中学校の子どもにとって、より重要となる。



本校の振り返りの視点

の過程を組み合わせ、それぞれの過程において、個人追究、グループ活動、学級全体での関わり合いという学習形態を工夫することで、仲間と協働的に学ぶ環境を整えた。

例えば、振り子の周期が振り子の長さによって決まるということ、条件を制御した実験によって習得し、その知識や技能を活用して、連結振り子の周期について考える。これらの経験に基づき、単元の終末にびったり一秒振り子を探究する。

児童Aは連結振り子の周期は変わると予想し、理由を「つなげているので左右にぶらぶら動いてしまつて」とノートに書いた。その後、グループ実験において、「鎖のようになる」と考えた児童と、「おもりの長さも関係がある」と考えた児童との関わり合いを



連結振り子の実験をする様子

3 おわりに

通して、全体での関わり合いでは「ひもの長さとおもりの長さの関係についてと思う」と発言することができた。この日の学習履歴には「最初はおもりの重さも関係あるのかなと思つたけど、重さではなくて長さだと分かつた」と書いたことから、児童Aは仲間の考えの良さを認め、協働的に学んだと考えられる。このように協働的に学ぶ姿勢は、中学校理科を見通した資質・能力としても重要である。

3年間の研究を通して、次の4つの手だてが有効であることが分かつた。

- ①関わり合いではICTを積極的に活用して、資料の提示や観察、話し合いの場を設ける。
- ②個人追究、グループ活動、学級全体での関わり合いという学習形態を効果的に組み合わせる。
- ③単元構想では、問題解決の中に習得・活用・探究の過程を組み合わせる。
- ④OPPAの活用によってメタ認知を促し、自己肯定感を高める。

互いの考えの良さを認め合い、協働的に学ぼうとする姿勢は、自己肯定感の向上や温かい人間関係の構築につながる。

今後も、主体的に問題解決や探究に取り組み、生涯に渡って学び続ける子どもの育成について研究を進めたい。

『作文の友』 帯学習での活用法

朝のドリルを3ステップで

西尾市立西尾小学校 教務主任 倉知 雅美

低学年の実践例 1年生「ぶんをつくろう」

ステップ1

国語科の教科書で、助詞の「が」を使った文の構成を確認した後、挿絵を見て「何がどうする」の文を書きます。

ステップ2

復習として、教科書の写真を見て、「何がどうする」の文を書きます。指示がわかりやすいので、文を書き進めていくことができます。

ステップ3

国語科の教科書で、助詞の「は」「を」「へ」を使った文の作り方を学習した後、挿絵を見て文を書きます。ステップ2までの仕方と同じなので、朝ドリル学習の時間に自分で自信をもって取り組むことができます。



中学年の実践例 3年生「本は友だち」

ステップ1

夏休み前に行います。読書感想文が「始め」「中」「終わり」で構成されていることを学べます。作品のよさを感じさせることができます。

ステップ2

自分が読んだ本について、感想メモを記入していきます。

- ① 本を選んだわけ・本との出会い
 - ② あらすじや本の内容
 - ③ 心に残った場面や言葉など
 - ④ 自分が思った・考えたこと
- 観点があるので、助言が容易です。

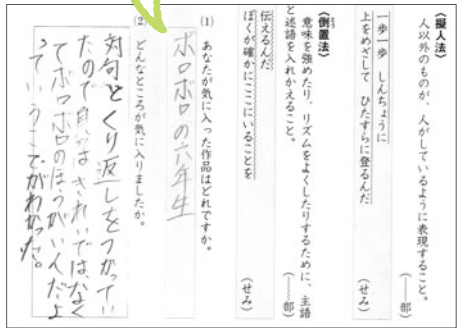
ステップ3

感想メモを組み立て表に記入。組み立て表のページには、「始め」「中」「終わり」のそれぞれに書くといふ内容が示してあるので、どの部分をどこに記述するといふか、具体的に指導することができます。組み立て表を作成すると、構成がしっかりした読書感想文が書けます。



朝の短い時間の指導に使えます。
スモールステップの構成なので、書く内容や書き方がわかりやすくなっています。

最終的な作品だけでなく、書き上げていく過程を評価するときにも生かれます。



高学年の実践例

6年生「表現をくふうして書こう(詩)」

ステップ1

『みかわの子』掲載作品から対句、擬態語、体言止めなど、さまざまな表現方法が学べます。気に入った作品とその理由を書いたり、くふうされている表現を見つけたりすることで、作品のよさを自分なりに分析できるようになります。

ステップ2

詩の題材を決め、連想メモを書き出していくことで、いちばん伝えたいことを考えます。教師は、「作文の友」を点検することで、学習の過程を評価できます。

ステップ3

原稿用紙のページを利用して、詩を書きます。自分が伝えたかったことや、表現方法の確認には、前ページを見ることが、簡単に振り返ることができます。また、原稿用紙の書き方の指導も合わせて行うことができ、効率的に進められます。

令和2年度学校教育ボランティア助成グループ一覧

読書活動グループ助成対象団体

〈地区〉	〈団体の名称〉	〈代表者〉	〈主な活動場所〉
附属	愛知教育大学附属岡崎小学校読み語りクラブ	岩月 美月	愛知教育大学附属岡崎小学校
岡崎	絵夢	永井 美香	竜谷小学校
岡崎	トトロの会	栗山夕希子	広幡小学校
岡崎	森千香先生とおはなしこんぺいとう	河合 恵美	矢作西小学校
岡崎	読み聞かせの会「がらがらどん」	青山 久恵	小豆坂小学校
碧南	赤いエプロン	古井 露子	新川小学校
刈谷	衣浦小図書レンジャー	石田 芳加	衣浦小学校
刈谷	ブックエンジェルズ(東刈谷小図書ボランティア)	天木 敬子	東刈谷小学校
豊田	森の本ばこ	藤川 裕子	童子山小学校
豊田	カワセミ読み聞かせクラブ	加藤 智子	追分小学校
豊田	ひよっこくらぶ	安藤佳代子	小原中部小学校
豊田	読み聞かせサークル「お話しブルブル」	深津香奈子	寿恵野小学校
豊田	豊田市立西保見小学校読み語りボランティア	原 範江	西保見小学校
豊田	読み聞かせボランティア「ひだまり」	井戸 幸	市木小学校
安城	マザーブック	杉保 理恵	安城南部小学校
安城	安城北部小図書サポーター	山路 幸江	安城北部小学校
安城	里町小図書整理・読み聞かせボランティア	坂本めぐみ	里町小学校
西尾	平坂中学校図書ボランティア	菅 邦子	平坂中学校
西尾	室場小学校図書ボランティア	波切かおり	室場小学校
西尾	福地北部小図書ボランティア	石川ともみ	福地北部小学校
知立	知立市立八ッ田小学校図書ボランティア	山口麻里子	八ッ田小学校
高浜	港小学校図書ボランティア「みなと」	貞方みゆき	港小学校
みよし	ミルキーボケット	杉本 美穂	緑丘小学校
幸田	ダンボの会	稲吉 幹子	深溝小学校
豊橋	読み聞かせ「たんぽぽ」	綿引 歌織	中野小学校
豊橋	磯辺小学校図書ボランティアむくろじの会	井上 翠	磯辺小学校
豊橋	植田小図書ボランティア「おひさま」	表 奈那	植田小学校
豊橋	図書ボランティアなのはな会	森 智子	西郷小学校
豊川	豊夢(とうむ)	三田 麻子	豊川小学校
豊川	花うさぎ	林 年野	萩小学校

〈地区〉	〈団体の名称〉	〈代表者〉	〈主な活動場所〉
豊川	御津南部小学校読み聞かせボランティア	中村 光子	御津南部小学校
蒲郡	南山おはなし会	平野 裕子	三谷東小学校
蒲郡	お話好き太郎	杉江 恵子	大塚小学校
新城市	ばちばちこか	菅谷 直美	東郷西小学校
新城市	本読みかあさんず	山本いづみ	八名小学校
田原	童浦小読み聞かせボランティア	藤城 文	童浦小学校
田原	衣笠小学校読み聞かせ・図書館ボランティア	所 深香	衣笠小学校
北設楽	田口読み聞かせの会	大谷早奈江	田口小学校
北設楽	名倉読み聞かせの会	鈴木 倫子	名倉小学校
附属	愛知教育大学ダンス部(ダンス演技指導等)	成瀬 麻美	愛知教育大学附属特別支援学校
岡崎	矢作地区環境浄化グループ(リサイクル部品回収等)	鈴木 正弘	矢作中学校
岡崎	額中お助け隊(除草・清掃等)	山本 英雄	額田中学校
岡崎	藤井達吉調査隊(藤井達吉調査活動)	永坂 直義	棚尾小学校
碧南	藤井達吉調査隊(藤井達吉調査活動)	新野加奈子	小高原小学校
刈谷	小高原小学校英語ボランティア(英会話)	澤田 吉邦	朝日丘中学校
刈谷	おやじ・おふくろの会(花づくり・環境整備)	山内 泰朗	御作小学校
豊田	御作小学校花いっぱいボランティア(学校花壇整備)	岡本 章	今池小学校
豊田	今池小地域お助け隊(学校菜園管理等)	鈴木 静夫	三和小学校
安城	今池小地域お助け隊(学校菜園管理等)	神谷 一夫	猿渡小学校
西尾	ピオトープ委員会(ピオトープ池整備)	中根 忠義	吉浜小学校
知立	猿渡小おやじの会(校庭整備活動等)	土井 秋男	三吉小学校通学路
高浜	吉小応援会(農園(栽培園指導)	加藤 陽平	幸田中学校
みよし	三吉小学校登下校見守りボランティア(登下校見守り等)	永井 智子	松葉小学校
幸田	幸田中親父の会(グラウンド整備)	水鳥誠一郎	清水小学校区
豊橋	ガーデニングボランティア(花壇整備)	村松 厚志	小坂井東小学校
豊橋	清水校区地域安全パトロール隊(交通安全指導)	武内 勝義	三谷中学校
豊川	小坂井東小学校おやじの会(校内破損箇所修理等)	白井 賢司	鳳来中部小学校
蒲郡	地域芸能を伝える会(地域芸能指導)	山本 五男	福江小学校
新城市	中部小環境ボランティア(環境整備等)	伊藤 芳子	東栄小学校
田原	はつらつ隊(環境整備等)		
北設楽	東栄小ふるさと学習応援隊(体験活動等学習支援)		

読書活動以外のグループ助成対象団体

発表年月日	研究領域	研 究 主 題	研究期間	指定等	地 区	学校名
2. 11. 4 (水)	教科指導	深い学びへとつながる授業づくり ～見通しをもって考え、響き合う中で学ぶ姿を求めて～	30～2	西三河 事務協	幸 田	南部中
2. 11. 10 (火)	道德教育	互いに認め合い、仲間とともに主体的に行動できる 台中生の育成 ～コミュニケーション力を育てる道德科の実践を通して～	元～2	市教委 (指定)	豊 田	猿投台中
2. 11. 13 (金)	学習指導	他者との関わりの中で、主体的に自分の考えを発信・ 評価できる生徒の育成 ～「書く」「話す」「説明する」等の表現活動を通して～	元～2	市教委 (指定)	豊 田	梅坪台中

〈小中学校合同〉

発表年月日	研究領域	研 究 主 題	研究期間	指定等	地 区	学校名
2. 10. 28 (水)	外国人 児童生徒教育	魅力あふれる『多文化共生の街“保見”』の深化に向けた コミュニティ・スクールとしての連携 ～『ちがいい』を認め合い、学び合う児童生徒の育成を通して～	元～2	市教委 (指定)	豊 田	西保見小 保見中

〈紙上発表校〉

発表年月日	研究領域	研 究 主 題	研究期間	指定等	地 区	学校名
2. 10. 16 (金)	学校図書館	他者とのかわり感性をみがきあう子の育成 ～図書館や地域を効果的に活用した授業づくりを通して～	元～2	市教委 (委嘱)	豊 田	萩野小
2. 10. 21 (水)	国語・算数科	主体的に学び続ける子供の育成 ～「まちガエル」・「かんガエル」・「ふりカエル」で「みちガエル」～	30～2	市教委	岡 崎	緑丘小
2. 10. 22 (木)	教科指導	伝えるつながるハッピー笑顔 ～自己有用感を生む異学年交流での学び合い～	元～2	市教委	田 原	亀山小
2. 10. 22 (木)	教科指導	響きあいながら考えを深める子どもの育成 ～子どもたちが思いをもって語り合う授業をめざして～	30～2	市教委	新 城	新城小
2. 10. 22 (木)	各教科・領域	子どもが自ら学ぶ意欲をもち、「つながる」「つなげる」授業づくり ～教科・領域を関連させた学びを通して～	30～2	市教委	新 城	庭野小
2. 10. 22 (木)	教科指導	自ら学びを深める生徒の育成	30～2	市教委	新 城	千郷中
2. 10. 23 (金)	学習指導 (プログラミング)	論理的思考を身に付け、ともに学び合う元城っ子の育成 ～プログラミング教育を取り入れた授業づくりを通して～	元～2	市教委 (指定)	豊 田	元城小
2. 10. 28 (水)	全教科	学びに向かう力を育む授業の創造 ～「みんなが学ぶ・みんなが伸びるチーム学習」を通して～	30～2	市教委	岡 崎	細川小
2. 10. 28 (水)	国 語	未来を拓く中央っ子 ～伝え合い、自ら考える国語の授業～	30～2	市教委	蒲 郡	中央小
2. 10. 28 (水)	生活科、社会科 算数科、生単・ 自立(特別支援)	ともに学び、ともに生きる ～主体的・対話的で深い学びを育む授業づくりへの 挑戦(3年次)～	30～2	市教委	蒲 郡	塩津小
2. 10. 30 (金)	全教科 生単(特別支援) 保健(養護教諭)	かわり合いながら主体的に追究する生徒の育成～	30～2	市教委	蒲 郡	形原中
2. 11. 11 (水)	全教科	自ら学び続け、未来を切り拓くことができる生徒の育成 ～CRSで「学びに向かう力」を引き出す授業づくり～	30～2	市教委	岡 崎	額田中
2. 11. 13 (金)	全教科	わかる学習指導第12次研究 (2年次) 自ら学び続ける生徒の育成 ～「読む」「書く」の充実を図り、『わかる』の実感 を強める学習指導を中心に～	毎年	自主	岡 崎	竜海中

三河の教育研究	令和2年度	研究発表校一覧
---------	-------	---------

令和2年7月1日現在

〈附属学校〉

発表年月日	研究領域	研 究 主 題 等	研究期間	学校名
2. 9. 29 (火)	教 科	第50回生活教育研究協議会 「独創性を育む」 (5年次)	28～2	附 属 岡 崎 中
2. 11. 6 (金)	教 科	第51回障害児教育研究協議会 「夢中になって学ぶ子どもの姿を求めて」 (5年次)	2～6	附属特別支援
2. 11. 19 (木) 2. 11. 20 (金)	教 科	第71回生活教育研究協議会 「豊かに生きる」 (3年次)	30～4	附 属 岡 崎 小

〈小学校〉

発表年月日	研究領域	研 究 主 題	研究期間	指定等	地 区	学校名
2. 10. 3 (金)	教 科	自ら探究し、仲間と共に未来をよりよくしようと行動 する子どもの育成 ～地域に学ぶ「住吉っ子カリキュラム」～	元～2	市教委	刈 谷	住吉小
2. 10. 14 (水)	学習指導	学びの意識をもって深く学び、その成果を咲き誇らせる子の育成 ～関わりを重視した学習を通して～	30～2	市教委	豊 橋	つつじが丘小
2. 10. 22 (木)	学習指導	「たいわ」で深める授業づくり ～自分の考えを伝え、友だちの考えから学ぶ子の育成～	30～2	市教委	豊 川	平尾小
2. 10. 22 (木)	特別活動	自ら考え、本気で取り組む萩小っ子 ～「どんな自分になりたいの?」特別活動の考えを生かして～	30～2	市教委	豊 川	萩小
2. 10. 22 (木)	道 徳	自己を見つめ、他者を認め合う、小東っ子の育成 ～対話を中心とした道德科の授業を通して～	30～2	市教委	豊 川	小坂井東小
2. 10. 22 (木)	全教科 領域	豊かな心をもつ浜っ子の育成 ～役割と責任を果たし、自己有用感を高める活動を通して～	30～2	市教委	碧 南	大浜小 ^(注1)
2. 10. 22 (木)	社会科 生活科	「未来を切り拓く力・態度の育成」 ～『見方・考え方』を働かせるための六連スタイルの 学習指導を通して～	30～2	市教委	田 原	六連小 ^(注1)
2. 10. 27 (火)	教 科	主体的に学びに向かい、かわり合いを通して学び を深める子どもの育成 ～互いに認め合う学級づくりを基盤とした授業づくりを通して～	元～2	市教委	刈 谷	小高原小
2. 10. 28 (水)	主権者教育	地域や社会の発展に主体的・協働的に参画できる子どもの育成 ～地域に開かれた教科等横断的な取り組みを通して～	30～2	市教委	豊 橋	野依小

〈中学校〉

発表年月日	研究領域	研 究 主 題	研究期間	指定等	地 区	学校名
2. 10. 22 (木)	道 徳	自己肯定感を高めることができる生徒の育成 ～「伝えたい」「聴きたい」が広がる、道德授業の実践を通して～	30～2	市教委	豊 川	一宮中
2. 10. 29 (木)	教科指導	「仲間と共に課題に向き合い、自ら学ぶ生徒の育成」 ～課題設定・個人思考・話し合いを重視した協同学習を通して～	元～2	事務協	北設楽	設楽中
2. 11. 4 (水)	生徒指導	共感的な人間関係の中で、自己実現に向け歩みだす 生徒の育成 ～自己肯定感・自己有用感を高める3つの力の育成を通して～	30～2	市教委	豊 橋	中部中

※知立、西尾市は発表を来年度に延期し本年度はなし。 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、変更になる場合あり。

(注1)：市内のみの発表とする。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、緊急事態宣言が発令されるなど、前例のない状況からの出発となりました。

本法人の事業につきましても、年度当初の学校事務担当者会での中止に始まり、各種の会議が中止となりました。十分な説明がないまま、お困りのこともあるかと思えます。不明な点は遠慮なく文振担当者にお問い合わせください。

6月から下記の通り、新しいメンバーによる業務組織になりました。これまでと同様によりしく願います。

郡市教育・研究助成について

◆例年どおり実施します。使用用途については、熱中症及び新型コロナウイルス対策にもぜひご活用ください。

『親と子の自然観察ガイド』第4集 虫の鳴き声がQRコードから聞こえる



A5判64ページ
頒価 550円(税込)

◆新版である第4集を本年度発刊しました。ネイチャーウォッチングの講師が三河の自然を美しい写真と共にくわしく紹介しています。「自由研究の進め方」も掲載しています。学校でも購入し、図書館や学級文庫において役立ててください。また、保護者の皆さんに直接手に取ってもらえる機会を作っていたできれば幸いです。

『高校入試問題集』発刊

◆追加注文を受け付けますので、お申し込みください。

三河地区の国公立、私立高校入試対策にぴったりの問題集です。



B5判464ページ
頒価 1,100円(税込)

『英語演習』バージョンアップ 実力向上間違いなし！長文問題の充実

◆来年度、『デリーイングリッシュ』が『英語演習』として新しく生まれ変わります。

従来のテキストをやめ、その分学校現場から要望の多かった長文問題や自己表現問題をたくさん盛り込んで、テスト（プリント）主体とします。そして、リスニングの問題も高校入試対策にもなるように全面的に見直します。

新学習指導要領の実施に合わせて大幅に変わる、教科書準拠の『英語演習』にご期待ください。

令和2年度版『夏休み日誌』休刊

◆本年度『夏休み日誌』を休刊します。学校の休校長期化で、授業ができていない状況や、夏休みの大幅な短縮が計画されているなかで、既習事項の復習を内容とした本誌は、活用場が少ないのではないかと判断からです。これにともない使用報告の必要はありません。

来年度は、予定通り発刊できるよう準備を進めていますので、ご活用をお願いします。

令和2年度 業務組織

顧問	青木 宏氏	副理事長	浅井 英雄
理事長	天野 明典	福井 基明	
常務理事	河合 智仁	伊藤 雅朗	
事務長 (兼総務部長)		天野 広子	
事務次長 (兼業務部長)		水鳥 勝久	
総務部	山本 満夫	水藤 彰啓	
編集部	酒井 敬	本多麻紀子	深津 理絵
業務部	稲垣 良治	谷中 智典	牧 富代
経理部	白井 博司		
事務員	鈴木 千明		



使用報告・刊行物注文締切

- ◇使用報告／算数の友(下) 9月8日(火)～10日(木)
- 注文締切／冬休み日誌・かきぞめ手本 9月15日(火)～17日(木)



会議の予定

- 第2回文振郡市正副代表者会 10月9日(金)
- 第2回文振郡市事務担当者会 10月20日(火)
- 刊行物郡市説明会 10月下旬より開始します。

